令和８年度

国語

学校推薦型選抜指定校特待生選考

入学試験問題

注意事項

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は、11 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気づいた場合は、
手を挙げて監督者に知らせなさい。

３．解答は、解答用紙に記入しなさい。

４．解答用紙には解答欄以外に受験番号、氏名の記入欄があるので、監督者の指示に従って
記入しなさい。

５．問題冊子の余白等は適宜利用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。

６．試験終了後、問題冊子も回収します。

受験番号（　　）

氏　　名（　　）

国語

【設問一】　次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

イタリアの地震学者ら七人が二〇一二年十月、禁固六年の有罪判決を受けた。〇九年四月、ラクイラという町でマグニチュード６・３の地震が起き、三百人以上が①**ギセイ**になった。目立ちたがりやのベルルスコーニ首相（当時）が「夏のサミットは復興をとげたラクイラで開く！」と開催地を②**急遽**変更するなど注目を浴びた。

報道によると、現地では半年前から小さな地震が続いていた。国の研究会が現地で開かれ、地震学者や行政担当者が今後の対応を協議したのが、発生の六日前。その場で学者たちが「短期的には大地震は起きないだろう」「むしろ小さな地震が群発することで、地震のひずみが徐々に解放されている」と発言したことが、発表者によって「安全宣言」に＊１意訳された。

検察当局は、その言葉を信じて家にとどまった少なくとも三十七人が大地震で死亡したとして、１彼らを過失致死罪に問うた。ラクイラ地裁は、地震予知に失敗した責任ではなく、専門家の③**ブンセキ**とその結果の伝達に不備があったとして、求刑（禁固四年）を上回る厳しい判決を出した。

被告側の弁護団は即日、控訴を表明。今後、裁判がどう展開するかは不明だ。

世界一の地震国・ニッポンも、巨額の予算を地震予知研究やそのための観測網整備につぎ込んでいる。にもかかわらず、地震の発生日や④**キボ**を直前につかむ「直前予知」は実現せず、阪神・淡路大震災や東日本大震災で無力を＊２露呈した。２日本でイタリアのようなことが起きるだろうか。起きないと私は思う。

Ⅰ　イタリアの騒ぎはなぜ起きたか。イタリア国民の地震予知への期待があったのではないか。期待するほど、裏切られた時の失望は大きい。日本国民は、予知技術の限界を、少なくともイタリア人よりは理解していると思う。「信じない」とは言わないけれど、当たらないことを＊３念頭に置き、大地震がいつ来てもいいように防災・耐震対策も併せてしっかりやることにお金を使っている。

技術は人間が考え出すものである限り、限界がある。1技術の使命は困りごとを解決したり、暮らしをより便利にすることだが、必ず盲点が⑤**潜む**のだ。

一つは、技術やその成果が予想外の使われ方をすること。たとえば刃物は暮らしに欠かせないが、向ける相手を間違えると事件になる。湯たんぽのふたを締めたままガスコンロで温め、爆発した事故もあった。

Ⅱ　工業製品の注意書きが多くなる。おもちゃに「食べないでください」、電子レンジに「生き物を温めないでください」（！）などなど。製造者は予想外の使われ方まで予想して[2]先手を打たなければならない。

もう一つの盲点は「ヒューマンエラー」（人為的過失）。技術を正しく使っているつもりでも、ちょっとした不注意が大きなミスを招く。「失敗学」の権威・畑村洋太郎東大名誉教授は、ヒューマンエラーを防ぐ工学設計の重要性を繰り返し説いている。実際、[3]あなどれない要素だ。

スイスの「氷河特急」が脱線して多くの日本人が死傷した事故。多くの人が「鉄道大国のスイスでなぜ」と驚いたが、政府の調査委員会は「速度オーバーが原因」と発表した。時速三十五キロで走るべきところを二十キロ近くオーバーしていたらしい。

ＪＲ福知山線の脱線事故もそうだった。解決策としては、一定の速度を超えると自動ブレーキが⑥**サドウ**するシステムの導入があるが、これも運転手が機械任せにして油断するという新たなエラーを招く可能性がある。３失敗を想定しそれを防ぐための技術なのに、新たな失敗を招く種になるわけで、悩ましい。

Ⅲ　今回の騒動に日本が学ぶべきは、「専門家の言葉や考えをどう伝えるか」という問題である。４この点、日本はとうてい及第点には届かない。

専門家はおそらく、一般的な知識や見解を述べたのだろう。それを、「安心情報」につなげたい行政担当者が意訳し、「ラクイラで大きな地震は起きません」という色合いでマスメディアに伝えたと想像できる。記者たちはそれをさらに意訳し、「当局が安全宣言」という、単純化した見出しで伝え、それがそのまま住民に伝わったのではないか。

自分の常識を超えるような現実を前にして「そんなはずはない」という意識が現実を見えづらくさせることは「正常性バイアス」と呼ばれる。さらに住民の安全を守る責任を負った人たちが、見極めの難しいリスクについて「これをそのまま伝えたらパニックが起きる」と＊４忖度し、物事を⑦**婉曲**に伝えたり公表を伏せたりすることは「エリートパニック」と呼ばれる。

どちらも福島第一原発事故で起きたことだ。枝野幸男官房長官（当時）は、水や牛乳や野菜から放射性物質が検出されたことについて「直ちに健康への影響はない」「短期的には[4]危険はないものとみられる」という表現を多用し、逆に「長期的には危ないということか」との不安が広がった。彼が科学的知見に基づいて言っていたかも怪しいが、正常性バイアスと

エリートパニックの⑧**テンケイ**例ではないかと思う。

英国では一九八〇年代、ＢＳＥ(牛海綿状脳症、当時は「狂牛病」と呼ばれていた)が家畜に流行した時、病原体に⑨**オセン**された牛肉が国民の口に入ることはない、ということを宣伝するため、閣僚がハンバーガーを食べてみせるパフォーマンスをしてみせたが、その後、牛肉を食べた百人以上がＢＳＥ様の症状を呈する「クロイツフェルト・ヤコブ病」で死亡した。

この反省に基づいて始まったのが「科学コミュニケーション」という分野である。科学技術そのものは、ある程度の「不確かさ」を持っている。５しかも目の前の事象や近い将来の展開を見通すのはさらに不確かさをまとう。それらをひっくるめ、ありのままに、わかりやすく国民に伝える方法が模索されてきた。

日本でも二〇〇〇年代に入り、さまざまなレベルで科学コミュニケーションの⑩**ジッセン**が始まったが、原発事故後、多くの人々が放射能禍の不安に今なおおびえている。中には神経質すぎると思われる心配もあるけれど、事が起きてから、その不安を解消するのは並大抵のことではない。

二〇一一年版の「科学技術白書」は「社会とともに創り進める科学技術」を掲げ、科学コミュニケーションの充実を訴えた。もう少し早く、もう少し熱心に取り組むべきだったのだろうと思う。

（元村有希子著『気になる科学』毎日新聞社刊より）

問一　傍線部①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二　二重傍線部＊1～＊4の語句の本文中での意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

＊1「意訳された」…　ア　部分の一つ一つにはこだわりながら、全体的にまとめること。
イ　作者の意図には無関係に、読み手の主観でまとめること。
ウ　部分的な問題点には言及せず、要点だけをまとめること。
エ　作者の意図をねじまげて、読み手の都合でまとめること。

＊2「露呈した」　…　ア　曖昧だったことが、何かの機会にはっきり理解されること。
イ　知られていたことが、何かの機会に闇に沈んでしまうこと。
ウ　分からなかったことが、何かの機会にひらめき分かること。
エ　隠れていたものが、何かの機会に外部の人に知られること。

＊3「念頭に置き」…　ア　それとなく雰囲気を理解すること。
イ　自分の考えとしてしっかり抱くこと。
ウ　他人にもきちんと説明できること。
エ　世の中の動きをちゃんと見極めること。

＊4「忖度（そんたく）し」　…　ア　他人の発言でがらりと自分の考えを変えてしまうこと。
イ　周囲の状況にきちんと自分を変えて合わせること。
ウ　他人の気持ちをあれこれ自分なりに推し量ること。
エ　周囲の様子を見ながら自分の取る行動を決めること。

問三　本文の空欄 Ⅰ ～ Ⅲ に適する言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　むしろ
イ　しかし
ウ　だから
エ　おそらく
オ　そもそも

問四　波線部 1 に関する次の問いに答えなさい。

「技術の使命は困りごとを解決したり、暮らしをより便利にすることだが、」をパソコンで入力すると、「したり」に　　の印がつきました。《文法的に正しくありません》の意味です。では、この文を文法的に正しく添削するとどうなるでしょうか。後半の「暮らしをより便利にすることだが」を正しく書き直すことで、文法上正しい表現に改めなさい。

問五　波線部 2 「先手を打つ」という慣用句の逆の表現を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　後手に勝つ
イ　後手を打つ
ウ　後手に乗る
エ　後手を踏む

問六　波線部3「あなどれない」の同趣旨語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　あてにならない
イ　ばかにできない
ウ　信用できない
エ　気の置けない

問七　波線部4「危険はないものとみられる」を品詞に分けた場合、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　危険（名詞）は（助詞）ない（形容詞）もの（名詞）と（助詞）み（動詞）られる（助動詞）
イ　危険（名詞）は（助詞）ない（助動詞）もの（名詞）と（助詞）み（動詞）られる（助動詞）
ウ　危険（名詞）は（助詞）ない（形容詞）もの（名詞）と（助詞）みら（動詞）れる（助詞）
エ　危険（名詞）は（助詞）ない（助動詞）もの（名詞）と（助詞）みら（動詞）れる（助詞）

問八　傍線部1「彼ら」とは誰を指しますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　検察当局
イ　行政担当者
ウ　地震学者
エ　発表者
オ　ラクイラ市民

問九　傍線部２のように判断する理由を説明した場合、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　地震予知技術が世界の中でもかなり進んでいるし、防災・耐震対策もしっかりやれているから。
イ　地震予知技術の限界をある程度理解しているし、防災・耐震対策もしっかりやれているから。
ウ　技術に潜む盲点がかなり解明されてきているし、予想外の出来事への対策も取れているから。
エ　技術の限界について科学的に解明されているし、それに伴い科学への期待も持ち合わせているから。
オ　工業製品の進歩は世界でも群を抜いているし、製品の予想外の使われ方まで注意を払っているから。

問十　傍線部３とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　事故を防ぐために新たなシステムを導入しても、そのシステムに欠陥があるかどうかの判断は第三者に任せる他ないということ。
イ　事故を防ぐために工学設計の重要性を学者が説いても、多くの人間にはその具体的な内容までは理解することができないということ。
ウ　新しいシステムが開発されたとしても油断してしまうので、結局は人間の技術力などおよそ信頼できるものではないということ。
エ　技術を正しく使っても人為的なミスは必ず起きるので、技術を使う側の人間の心の安定状態が何より大切であるということ。
オ　技術の限界を補うための新たな技術を開発したとしても、人間がその技術を完全に使いこなすことは不可能に近いということ。

問十一　傍線部４のように述べる理由を説明した場合、適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　行政担当者から記者たちに情報を伝えるとき、意図的に内容が曲げられてしまうから。
イ　専門家の言葉や考えを住民に知らせるとき、内容が難しすぎて伝わりにくくなるから。
ウ　見極めの難しいリスクが生じたとき、責任ある立場の人達が事実を歪めてしまうから。
エ　マスメディアから住民に情報が伝わるとき、記者個人の主観が色濃く出てしまうから。
オ　自分の常識を超える現実を前にしたとき、個人の意識が現実を見えづらくさせるから。

問十二　傍線部５のようになるのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　ありのままに伝えることさえできていないうえ、分かりやすくとなると難易度が上がってしまうから。
イ　科学的知見に基づくしっかりした対応は難しいうえ、多くの情報からどれを選ぶかは更に難しいから。
ウ　事故に対する今の不安を解消するのは難しいうえ、過去のことにまで遡るとなるとますます難しいから。
エ　科学技術は不確かさを内包しているうえ、今の自分がどう対応すべきかの判断は難しいものだから。
オ　自分の考えを整理するだけでも大変なうえ、他人とのコミュニケーションなどできるわけがないから。

問十三　本文の要旨をまとめた場合、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　科学技術は常に不確かさを持っているが、その前提で事実を伝え共有することが必要である。
イ　科学技術は常に不確かさを持っているが、それをコミュニケーションでなくすことは可能である。
ウ　科学技術は常に不確かさを持っているが、それを補うのは専門家の育成つまり人材教育である。
エ　科学技術は常に不確かさを持っているが、その究明のためには国際的な協力が不可欠である。
オ　科学技術は常に不確かさを持っているが、それは人間そのものが当てにならないことに起因する。

【設問二】　次の本文を読んで、後の設問に答えなさい。

がん薬物治療を専門とする高野利実さんは、東京大学医学部時代の恩師である養老孟司さん（肺がんを再発）の考え方に大きな影響を受けてきたといいます。いつか養老先生と生や死について語り合いたい。その思いが実り、対談が実現しました。対談を終え、いま思うことを聞きました。

◇

養老先生との一番の思い出は30年前の１９９５年に手がけた「人体展」です。僕は東大の学生で、先生は東大を57歳で退官した年でした。

ご遺体から水分を抜き、液体樹脂を注入した「人体標本」が東大で展示され、その後、仙台で一般公開されました。それにあわせて、「人間とは何か」を考えるシンポジウムも企画して、養老先生にも足を運んでいただきました。

人体も人の死も自然のもので、隠すものではない。人間がものを考えるときに基準となる「モノサシ」は人間そのもので、人間を度外視した科学ではなく、①人間を見つめる「人間科学」が必要だ。あのころの養老先生との対話は、いまの医師としての考えに大きな影響を与えています。

僕が医学部を卒業したころ、医療の世界で「ＥＢＭ（Evidence―Based―Medicine＝エビデンスに基づく医療）」が一気に広まりました。実際の数字や統計（エビデンス）に基づいて、よい結果が得られる確率の高い治療方針を選択する、というもので、世界中でいま、医療の基本的な考え方になっています。

ただ、僕は日々、患者さんと接するなかで、医療で大事な考え方はそれだけではないと強く感じています。ＥＢＭは最大多数の最大幸福につながるよい方法ですが、エビデンスだけでは測れないものもあります。

患者さんの感情や思い、価値観はひとりひとり違いますし、数値であらわせません。エビデンスも重要ですが、個々の患者さんの思いや価値観は、もっと大事です。

僕は、ＥＢＭを超えてめざすべき医療として「ＨＢＭ（Human―Based―Medicine＝人間に基づく医療）を提唱しています。「ひとりひとりの、その人なりの幸せ」を目標に、②「ひとりひとりの思いや価値観」を根拠に、「人間の幸せを追求」していく医療です。

たとえば、ＥＢＭの考え方で、あらゆる病気の「標準治療」が確立していますが、「標準治療だからやって当然」なのではなく、その患者さんが大切にしているものが損なわれてしまうのであれば、別の選択をすることもあります。治療が人生よりも優先されてはならない、と考えています。

養老先生はいま、一人の人間として、老いやがんを、自然に受け止めているように感じました。「幸せですか？」という質問に、「はい」と即答されたのが、印象的でした。「幸せ」というより、「居心地のよさ」だと言っていたのも養老先生らしいです。

がんになっても自分らしく生きることはできるし、それを支えていくのが医療の役割だと思います。「医療は人間の幸せ（＝居心地のよさ）のためにある」という原点を忘れずに、これからも患者さんと向き合っていきたいと、改めて感じています。

（朝日新聞２０２５年８月２５日　「暮らし…居心地よくその日を生きよ…養老孟司さんと語る　より」）

問一　傍線部①について。その実現のために高野さんがたどり着いた考え方は何ですか。本文中から三文字を抜き出すことで答えなさい。漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット、何でも構いません。

問二　傍線部②について。この表現の中核となる言葉は「人間の幸せ」ですが、この抽象的な言葉を具体的に言い換えた部分があります。本文中から**五～六字程度**で抜き出して答えなさい。

問三　二重傍線部について。あなたが、重い病気になったと想定してください。そのときあなたが考える「自分らしく生きる」ということについて自由に述べなさい。必ずしも、医療にこだわる必要はありません。三〇〇字以上、三五〇字以内でまとめてください。

【注意】　書き始めは、第一マスからとします。
行の最初に句読点がくる場合は、前の行の一番下のマス外に打ちなさい。
改行したい場合は、句点（。）直後のマスに▼を入れなさい。
三〇〇字に満たない場合は減点とします。

令和８年度　学校推薦型選抜指定校特待生選考　国語　解答用紙　※太枠内のみ記入しなさい

受験番号（　　）　氏名（　　）

【設問一】

問一

①	⑥
②	⑦
③	⑧
④	⑨
⑤	⑩

む

問二

※1
※2
※3
※4

問三

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ

問四

技術の使命は困りごとを解決したり、

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三

【設問二】

問一

問二

問三

350　300　200　100

令和8年度　学校推薦型選抜指定校特待生選考　国語　解答　※太枠内のみ記入しなさい

受験番号（　　　　　）　氏名（　　　　　　　　）

【設問一】

問一（1×10）10
① 犠牲
② きゅうきょ
③ 分析
④ 規模
⑤ ひそむ
⑥ 作動
⑦ えんきょく
⑧ 典型
⑨ 汚染
⑩ 実践

問二（2×4）14
※1 イ
※2 エ
※3 イ
※4 ウ

問三（2×3）
Ⅰ オ
Ⅱ ウ
Ⅲ ア

問四（3）10
技術の使命は困りごとを解決したり、暮らしをより便利にしたりすることだが、

問五（2）
エ

問六（2）
イ

問七（3）
ア

問八（3）30
ウ

問九（5）
イ

問十（5）
オ

問十一（3×2）
ウ
オ

問十二（5）
エ

問十三（6）
ア

【設問二】

問一（3）6
H
B
M

問二（3）
居心地のよさ

問三 30

知らされた直後はショックを受け、しばらくは混乱するだろう。とても前向きになどなれそうにない。▼しかし少し冷静になれたとき、余命がどうであれ、一日一時間をこれまで以上に大切に生きようと思うはずだ。家族や友人との時間を大切にしたい。話したり泣いたり笑ったりというその瞬間に、生きているという実感が湧くのではなかろうか。▼そして、一人の時間もより大切にしたい。趣味ややりたいことを楽しめる日々を送りたい。絵を描いたり、読書をしたり。その一コマ一コマに「居心地のよさ」を感じるかも知れない。身体の自由が許す範囲で、旅もしてみたい。一人で泣くだろうが、日常とは異なる体験ができそうだ。▼このように時間を大切に過ごすなかで、きっと少しずつ気持ちの整理もできるのだろう。また、そうなれることを願いたい。

令和８年度 国語 【学校推薦型選抜指定校特待生選考】 出題意図

【設問一】 評論文：基礎的国語力・論理的読解力の確認

・漢字の読み書き、語彙の意味、接続詞の正確な理解など、国語の基礎的学力が定着しているかを確認する。

・助詞・助動詞の識別や文法的に正しい文表現を把握できているかを判定する。

・筆者の主張を的確に把握する論理的読解力を評価する。

・文章全体の要旨や、文脈に応じた登場人物の視点を整理して正しく読み取る総合的な読解力を確認する。

【設問二】 評論文および小論文：情報抽出力・論理的思考力・表現力の確認

・筆者の主張や指定された根拠となる語句を的確に探して抽出する精読力・要約力を判定する。

・課題に対し、自らの考えを論理的かつ明確に展開できる文章表現力を評価する。

・指定文字数や原稿用紙の表記ルールに従い、過不足なく意見をまとめる記述能力を確認する。